

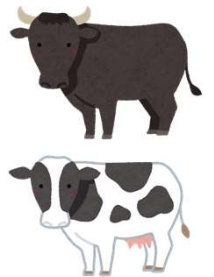


〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場1706-3
 電話番号 0969-22-3668 FAX番号 0969-24-4393
 電子メールアドレス amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp

牛の異常産をワクチンで予防しましょう

流産、早産、死産、胎子の体形異常などを主徴とする「牛の異常産」は、細菌、ウイルス、栄養障害など様々な原因で発生します。中でも、蚊やヌカカが媒介するアカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病による異常産は、時に大規模な発生となり、経済的な損失が大きいと言われています。牛の異常産は全国で散発しており、熊本県でも2013年及び2019年にアカバネ病が、更に2019年にはピートンウイルスの関与が疑われる異常産が発生しました。加えて、2023年には、流行性出血病ウイルス（EHDV）の関与が疑われる嚥下障害や流死産が発生しています（1月号参照）。異常産を引き起こす疾病のうち下表のものは、ワクチン接種で予防できるため、母牛にワクチンを毎年接種し、農場及び地域全体の抗体保有率を高めることが重要です。

肉用牛
乳用牛
共通です



疾病名	アカバネ病	アイノウイルス感染症	ピートンウイルスの関与を疑う異常産	チュウザン病
発生時期	夏～翌年春			秋～翌年春
臨床症状				
	水無脳症（大脳欠損や小脳欠損）			
ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産・死産 ・脊柱のわん曲 ・起立困難 ・盲目等の神経症状 		<ul style="list-style-type: none"> ・虚弱、盲目、起立不能 ・体形異常はない 	
	異常産3種混合ワクチン（アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症） 異常産4種混合ワクチン（上記+ピートンウイルスの関与を疑う異常産）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルスを媒介する吸血昆虫（蚊やヌカカ）が活発化する前に接種する。 ・未経産牛及び前年度未接種の繁殖牛に4週間隔で2回接種する。 ・前年度に接種経験のある牛は、1回接種する。 				

ランピースキン病の国内への侵入リスクが高まっています

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病です。

主に蚊、ハエ、ダニ等の媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。

感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少等の症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

本病は日本において未発生ですが、2019年以降、アジアで発生が拡大しており、2023年10月には韓国でも発生が確認され、国内への侵入リスクが高まっています。

農場においても毎日の健康観察、害虫の駆除、衛生管理区域内における整理整頓や施設・器具等の清掃、消毒の徹底をお願いします。

疑わしい牛を発見した際は、獣医師や家畜保健衛生所への連絡をお願いします。



引用：農林水産省HP



ランピースキン病に関する農林水産省HPのQRコード

日本では農林水産省が2024年1月23日付けで、「ランピースキン病防疫対策要領」を策定し、本病の予防対策、異状時の対応及びまん延の防止対策について、体制を整備しています。

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	台湾	家きん(12件)	1月~2月
			野鳥	1月4日
	韓国	野鳥	2月4日	
	H5N6	韓国	肉用あひる	2月8日
アフリカ豚熱		韓国	野生いのしし(201件)	2月

令和6年(2024年)3月1日現在

通報

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。
天草家畜保健衛生所 電話番号0969-22-3668

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」

